

マンガで読むNHKヒストリー

第6話

テレビを見ない時間帯を変えた“朝ドラ”



また、朝8時15分からの15分間になり、以後50年近く朝の視聴習慣として定着した。



第4作「うず潮」林芙美子



第2作「あしたの風」壺井栄



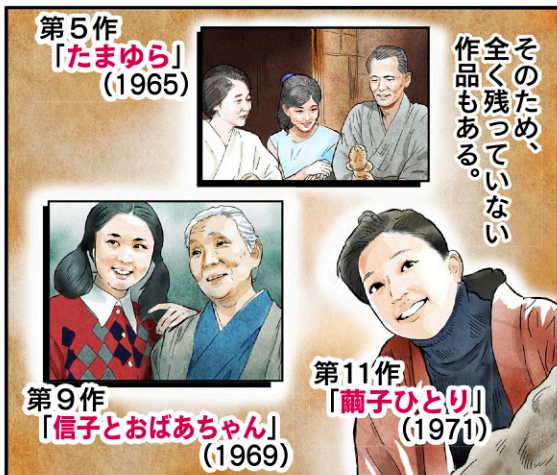
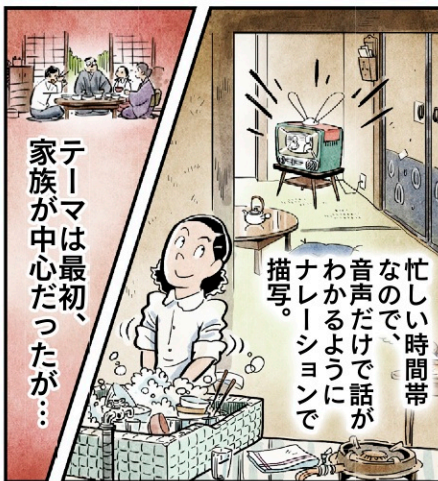
第3作「あかつき」武者小路実篤



第5作「たまゆら」川端康成

そこで、第1作はラジオドラマの再構成。第2作以降は小説が原作となった。

しかし、オリジナルで1年分の連ドラを書ける脚本家はほとんどいなかった。



再び1年間で制作されたのは、テレビ放送30年を記念した第31作「おしん」。

62.9%というテレビドラマ最高視聴率を記録した。

第15作「水色の時」(1975年度前半)

東京制作

大阪制作

第15作から半年になり、準備期間がとれるように、東京と大阪で交互に制作されるようになった。

第16作「おはようさん」(1975年度後半)

1年間撮影するのは出演者もスタッフも大変。

はい、脚本できました

追早早いよ！

な追早早いよ！

第12作「藍より青く」(1972)

真木洋子

戦中に結婚し、夫を失った女性が上京

第14作「鳩子の海」(1974)

藤田美保子

原爆で記憶を失った戦争孤児

最初の10年ほどは、戦争体験の二代記が共感を呼んだ。

朝ドラは、その時代の女性の生き方を反映する番組でもあった。

おしん

少女期のおしんを演じた小林綾子が山形を紹介する番組を朝ドラの時間に放送してつないだ。

しかし、成年期のおしんを演じる田中裕子が過労で入院することになる。

1か月は休ませてください

……

……

清水美砂 いしだあゆみ

第42作「青春家族」(1989)

山本陽子

第45作「京、ふたり」(1990)

皇田理恵

離婚して自立した母と跡取り娘

ダブルキャストにした作品も現れる。

世代観が違う母と子

日本の成長とともに朝ドラも様変わりしてゆき…

第17作「雲のじゅうたん」(1976)

浅茅陽子

パイロットをめざした女性

第23作「マア姉ちゃん」(1979)

熊谷真実

漫画家・長谷川町子一家

第25作「なっちゃんの写真館」(1980)

星野知子

カメラマンをめざした女性

しだいに社会進出した女性を描く話が多くなる。

さらなる挑戦も続けられている。

第91作「マッサン」(2014)

シャロット・ホワイト・マックス

初の海外からのヒロイン

第77作「ちりとでちん」(2007)

實地谷しほり

ネガティブ思考のヒロイン

第75作「芋たこなんきん」(2006)

藤山直美

37歳から物語が始まる

第64作「ちゅらさん」(2001)

続編を4本制作

最近、等身大の女性を描くことが多くなるとともに…

第62作「私の青空」(2000)

田畑智子

シングルマザーのヒロイン

国仲涼子